法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-09

〈書評と紹介〉小口雅史他編　『内閣文庫所蔵史籍叢刊　古代中世篇第3巻』

山口, 英男 / YAMAGUCHI, Hideo

(出版者 / Publisher)
法政大学史学会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法政史学 / 法政史学
(巻 / Volume)
78
(開始ページ / Start Page)
75
(終了ページ / End Page)
76
(発行年 / Year)
2012-09-30

Hosei University Repository

〈書評と紹介〉

小口雅史他　編

『内閣文庫所蔵史籍叢刊　古代中世篇　第3巻』

山口　英男

本書は、本年三月より刊行が開始された「内閣文庫所蔵史籍叢刊　古代中世篇」（第一期全一〇巻）の第一回配本で、平安鎌倉期の法制史料など八書目の影印と解題を収める。独立行政法人国立公文書館に属する内閣文庫は、その沿革から江戸幕府の紅葉山文庫本のほか昌平坂学問所本、医学館本、和学講談所本など、歴史的に貴重な史料群を収蔵する。本叢刊では先に近世篇全一〇〇巻を刊行したが、これに続く今回の古代中世篇は、善本として、また他に例のない写本として知られる同文庫所蔵の古代中世の史籍約三〇書目の影印を刊行する計画である。以下、本冊に収録された書目を紹介していきたい。

『明法条々勘録』（小口雅史氏解題）

一冊。文永四年（一二六七）中原章澄著。暦応四年（一三四一）書写。興福寺大乗院旧蔵（他書を含め一連の大乗院什物は、明治二一年前後に一括して内閣文庫に売却されたもの）。徳大寺実基から諮問された一六箇条の法律上の疑義に対する勘申で、明法家として坂上家に対抗した中原家の学説を現在に伝える「天下の孤本」であり、内閣文庫本が唯一の伝本である。

『公家新制四十一箇条』（小口雅史氏解題）

一冊。康永三年（一三四四）書写。興福寺大乗院旧蔵。その内容は弘長三年（一二六三）八月一三日宣旨で、前々年の「関東新制条々」との関係が注目されてきた。『中世政治社会思想』（岩波日本思想大系）・『中世法制史料集』の底本である。

『法曹類林』（鹿内浩胤氏解題）

三巻。藤原通憲編。嘉元二年（一三〇四）頃書写。紅葉山文庫旧蔵。重要文化財。もとは金沢文庫本で、享保七年（一七二二）加賀前田家より幕府に献上された。『法曹類林』は全二三〇巻（あるいは七三〇巻）とされるが、今に伝来するのは、巻一九二・一九七・二〇〇・二二六と巻次不明の断簡にとどまる。内閣文庫に所蔵される三巻は、①巻一九二の二紙（第1紙・第5紙）と巻次不明の三紙（第2～4紙）からなる巻子（全五紙）、②巻一九七の第1紙のみからなる巻子（全一紙）、③巻二〇〇（全二五紙）である。朱書・朱点が見られ、影印は朱墨二色刷となっている。

『法隆寺伽藍縁起并流記資財帳』（小口雅史氏解題）

一冊。一八世紀末頃書写。甘露寺家旧蔵。天平一九年（七四七）に法隆寺三綱によって提出された内容を持つ『法隆寺伽藍縁起并流記資財帳』は、寛政七年（一七九五）に観心寺蓮蔵院本（現在は所在不明）が「発見」され、その写本数種が現在に伝わっている。「発見」時に作成された写本には、法隆寺に奉納された本（法隆寺

Hosei University Repository

所蔵折本）のほか、藤貞幹書写本の存在が知られる。甘露寺家に伝わった内閣文庫本は、甘露寺国長と貞幹の交流関係からみて、藤貞幹書写本と兄弟関係にあたる重要な写本の一つと考えられる。

『広隆寺縁起』（小口雅史氏解題）

一冊。明応三年（一四九四）書写。昌平坂学問所旧蔵。広隆寺の縁起ないし資財帳には、九世紀後半の成立で広隆寺に伝えられている国宝『広隆寺縁起資財帳』・同『広隆寺資財交替実録帳』があり、また『朝野群載』巻二所収の承和年間成立の『広隆寺縁起』が知られる。もと林家所蔵であった本書は、寺家に伝わっていた記録等を参照して一三世紀中期の後嵯峨院の頃以降に成立したもので、平安時代の広隆寺の歴史を解明するうえでの重要史料といえる。

『清獅眼抄』（新井重行氏解題）

一冊。享保九年（一七二四）書写。紅葉山文庫旧蔵。書名の「清」は清原氏、「獅」は検非違使を意味し、清原氏（またはその関係者）によってまとめられた検非違使の作法・装束等の前例に関する書で、検非違使自身が記した記録や、検非違使関係の文書を多数収録している。もとは大部であったと推測されるが、現状では凶事部の一部が残るのみである。公家の旧蔵本などに写本が多数あるが、本書は現存部分を完備する最良の写本と考えられ、享保九年二月に金沢文庫本を書写して紅葉山文庫に収めたとする記録がある。

『外記宣旨』（高田義人氏解題）

一冊。江戸時代書写。押小路家旧蔵。内題に「外記　宣旨第十」とあり、広橋家旧蔵と伝える鎌倉時代書写の布施美術館所蔵『外記　宣旨第十』を写したものと考えられる。平安～鎌倉期の宣旨・官符・口宣案・勘文など六十数通を収め、その多くが他に見えないものである。内容は女院・后妃・年給に関わるものなどが多い。

『官位相当』（小倉慈司氏解題）

一冊。江戸時代書写。押小路家旧蔵。公家官職の故実について記した書で、黒川真頼・真道旧蔵で明治大学所蔵の『官職鏡』（源為憲の記した内容に増補を加えたもの）や、『拾芥抄』（鎌倉中後期に原形が成立し洞院公賢らが増補したもの）と同内容の部分がかなり見られる。本書内に内容の重複があることから、未定稿を書写したか、複数の異なる書を合わせて書写抄出したことが考えられる。令宗允亮に関わる記事が多いことから、その周辺の人物が本書成立に関わっていた可能性がある。

以上、簡単に収録史料の紹介を試みたが、いずれも近年になって史料的価値が評価（再評価）され、あるいは詳細な検討が今後に俟たれる史料である。学界における本書の活用と、本叢刊の進行に期待したい。

（二〇一二年三月刊　B5判　六三八頁　定価二一〇〇〇円　汲古書院）